# 『Discordia Concors』

*Journal of the Viola da Gamba Society of Japan*

# 書式の原則

『Discordia Concors』研究誌準備委員会では、日本音楽学会の様式に準じて書式について統一をはかることにしました。学術論文の書式には言語や分野によって様々な方式があり、絶対的な基準が存在するわけではありませんが、執筆者は出来る限りこの「書式の原則」に則ってください。なお編集委員会は執筆者の考え方を尊重しつつ、必要と認める場合に書式上の統一を行うことがあります。

2019年 12月 20 日

ここでは全角スペースを□、半角スペースは_で表します。

2017□*Journal_of_the_Viola_da_Gamba_Society_of_Japan_*は、実際には
2017 *Journal of the Viola da Gamba Society of Japan* となります。

## 1　「論文」の基本構成

「研究ノート」「原史料の全訳・抄訳」「学位論文の要約」もこれに準じる。

1-1　和文による「論文」の基本構成は以下の通り。＊印で挟んだ部分は必要がなければ省略可。書く場合は＊印不要。

和文タイトル　＊――副題――＊（副題を 2 倍ダッシュで囲む）
欧文タイトル　＊:_副題＊
本文 注
引用文献
＊参照楽譜＊
＊参照音源＊

1-2　和文要旨ならびに欧文要旨は、本文とは別ファイルにまとめ、以下を記す。
【別紙１】和文タイトル・和文要旨
【別紙２】欧文タイトル・欧文要旨

1-3　執筆者名は, 査読の際に伏せるため本文ならびに要旨には記さず、別のファイルにタイトルとともに日本語と欧語で記して添付する。執筆者姓名の順は各言語の順序に従い、姓はすべて大文字で記す。
例１　山科高康□YAMASHINA_Takayasu
例２　ヴォルフガング・シュミーダー□Wolfgang_SCHMIEDER

## 2　「資料紹介」の基本構成

2-1　「資料紹介」の基本構成は以下の通り。＊印で挟んだ部分の扱いは 1-1 と同じ。
書誌データ
本文
＊参考文献＊
執筆者姓名（右寄せ・ゴシック体）

2-2　書誌データ
著者名または編者名（姓名の後に日本語で「著」「編」等を記す）
書名
和書の場合は『　』の中に入れ、洋書の場合はイタリックにする。
和書の副題を表す 2 倍ダッシュは副題の前のみとする。

（出版地：出版社、出版年月日、ページ数、価格、ISBN）
出版地の後にコロンを入れる（和書は全角，洋書は半角を用い半角スペースを挿入する）
出版地（都市名）が複数ある場合は主要なものを記す。
洋書は出版年のみを記載する。
ページ数は半角を用い，対象書の記載に準じて記す。
CiNii（http://ci.nii.ac.jp/books/）の記載が参考となる。

例 1　（和書）　277＋xvi 頁
例 2　（和書）　v＋370 頁
例 3　（洋書）　xx + 246 pages
例 4　（洋書）　xxxiii + 583 Seiten

価格は和書の場合には「税抜き価格＋税」とし、洋書の場合は価格のみを記す。
例 5　¥3,000＋税
例 6　£70
例 7　$120.00

2-3　和書の書誌データ記載例
松前紀男著
『クープラン――その家系と芸術』新版
（東京：音楽之友社、1997 年 4 月 20 日、図版 6＋330＋xxxvi 頁、¥3,800＋税、ISBN:_978-4-276-22206-9）

2-4　洋書の書誌データ記載例
Peter_Holman
*Life_After_Death:_The_Viola_Da_Gamba_in_Britain_From_Purcell_to_Dolmetsch*_(Music_in_Britain,_1600-1900). (Boydell_and_Brewer,_2013,_432_pages,_ $77.23_ISBN:_978-1-84383-574-5)

ISBN のない図書の場合：
Werner_Bachmann,_*Die_Anfänge_des_Streichinstrumentenspiels*_(Leipzig;_Breitkopf_&_Härtel_Musikverlag,_1966,_206+fig.40 pages,_£3.64)

2-5　マニュスクリプトの記載例
Valignano,_Alessandro_*Obedientias_1592,_Japonica_Sinica_(Jap._Sin.)_2,*_f._125-147v,_Roma,_Archivum_Romanum_Societatis_Iesu_(ARSI).

2-6　当時の印刷物の記載例
Diego_Ortiz,_*Trattado_de_Glossas,*_(Roma:_Dorico, 1553),_Staatsbibliothek_zu_Berlin-Preußischer_Kulturbesitz,_Musikabteilung_mit_Mendelssohn-Archiv.

## 3　文字等の表記

3-1　原則として現代仮名遣いと常用漢字を使用する。ただし文献の引用・固有名詞などの特殊な場合はのぞく。

3-2　外国語のカタカナ書きは、論文中で統一されている限り特殊な表記も差し支えない。

3-3　句点「。」と読点「、」を用いて書く。ピリオド「.」やカンマ「,」は用いない。ただし、原文がカンマで書かれた文献を引用する場合は、そのまま書いて、それを明示する。
例 1　「第 5 声部であるが，それをすることで」（コンマは原文のママ）

3-4　数字は原則としてアラビア数字を用いる。ただし慣用語、固有名詞、度量的意味の薄いものには漢数字を用 いてもよい。アラビア数字は文献表や文献参照箇所を示すページ数を含めすべて半角を用いる。

3-5　同じ語の表記は原則として統一する。例えば、以下のような語は表記の混在が起こりやすいので、注意が必要。「～のなかで／～の中で」「～のとおり／～の通り」「できる／出来る」「わかる／分かる」「たしかに／確 かに」等。

3-6　ピリオド、括弧などの各種記号の使用法については「書式の原則」最終ページに示した表を参照のこと。

3-7　日本語文中に英数字（コロンなどの半角記号）を挿入する場合には、英数字の前後に半角スペースを挿入する。作品番号の場合はアルファベットと数字の間に半角スペースを挿入する。

例１　作曲者_J._S._バッハ
例２　マタイ受難曲_BWV_244_では

3-8　主要な人名は初出時にフルネームで記し、原綴と生没年を併記する。

例３　フランソワ・クープラン_François_Couperin_(1668-1733)_は…

## 4　本文における引用文献・参照資料の提示方法

4-1　本文中で文献を引用または参照する場合は、言及した直後に著者姓、発行年、参照ページ等の書誌情報を丸括弧でくくり、本文に挿入する（例 1）。著者姓と発行年の間は半角スペース、発行年とページ数の間は半角コロンと半角スペースとする。丸括弧は、言及文献の和洋を問わず全角で入力する。

例１　（Woodfield_1989:_87）
（渡辺_1989:_14）

4-2　文中に著者の姓が記される場合には、丸括弧内に再録（例２ａ）せずに、例２ｂのように記す。

例 2a　笠原（笠原_2005:_200-237）
例 2b　笠原（2005:_200-237）

4-3　文中で執筆者の著作を指示する場合、査読に際して執筆者名が判明しないよう、「拙著」「拙稿」ではなく執筆者の姓で記す。

4-4　複数巻からなる文献から引用箇所を示す場合、例３のように、巻号の後にコロンを挿入し、ページ番号を示す。

例３　（松田・川崎_1977,_2:_107）

4-5　参照文献として巻号そのものを挙げる場合には、例４のように、「vol.」あるいは「巻」等を挿入して、ページ数を示す場合との混同を避ける。

例４　（Wicki_1984,_vol._5）
（礒山_2002,_3 巻）

4-6　参照ページが複数巻にわたる場合には，例５のように，巻と巻をセミコロンで分ける。

例５　（Wicki_1976,_1:_206,_336;_5:_478-479）
（角倉_1997,_1:_141;_4:_330,_450）

4-7　頻繁に引用する文献を略号で示すなどの工夫は、慣例にしたがって適宜行ってよい。その際には、「引用文献」の冒頭に「文献略号一覧」を付す。

## 5　本文における引用

5-1　短い引用は鍵括弧を使う。

5-2　長い引用は独立した段落とし，前後の段落とは１行空けて，全角２文字下げる。

## 6　注の付け方

6-1　投稿時には後注方式で執筆するが、製版に際しては脚注方式に変換する可能性がある。

6-2　注記番号にはアラビア数字を用い、番号のみを当該箇所の右肩上に記す（組版の時点で所定の方式に変換する）。

例 1　The means by which the traditional Western composers have attempted to communicate with their audience have been discussed at length by Eduard Hanslick,[2] Heinrich Schenker,[3] Suzanne Langer,[4] and Leonard Meyer,[5] to name but a few.

例 2　フランスのムーヴマン[41]について、又、イタリア人のそれとのちがいについて一言述べておくのは無駄ではないと思う。

6-3　注で書誌情報を詳しく記述する方式は避け、参照した文献の詳しい書誌情報は、論文の最後に「引用文献」としてまとめる。

6-4　注のなかで書誌情報に言及する必要がある場合は、本文と同様に丸括弧方式で言及する。

## 7　引用文献・参考文献・参照資料の書式

日本語文献（資料）は著者姓の五十音順、欧文文献（資料）は著者姓のアルファベット順に、それぞれ配列する。ただし、インターネットを通じて文献等を引用・参照した場合には、その情報を明示する。

### 7-1　日本語文献

単行書

〈基本の書き方〉著（編）者名□刊行年□『書名』（叢書情報等）□刊行地：刊行所［収録情報等］

著者が 1 人の場合
例 1　林謙三□1964□『正倉院楽器の研究』□東京：風間書店

著者が 2 人の場合
例 2　今谷和徳、井上さつき□2010□『フランス音楽史』□東京：春秋社

叢書図書の一部の原本を明記する場合
例 3　秀松軒（編）□元禄_16（1703）□『松の葉』□京都：井筒屋庄兵衛、万木治兵衛［復刻版□浅野健二（校注）□1959□『中世近世歌謡集』（日本古典文学大系 44）341-530□東京：岩波書店］

4 名以上の複数著（編）者の場合
例 4　角倉一朗、（編）□1986□『音楽と音楽学――服部幸三先生還暦記念論文集』□東京：音楽之友社

著者が団体の場合
例 5　[日本ヴィオラ・ダ・ガンバ協会]研究誌準備委員会□2018□『ヴィオラ・ダ・ガンバの手引』□東京：アカデミア・ミュージック

インターネットを通じて単行書 PDF を引用・参照した場合
例 6　[日本ヴィオラ・ダ・ガンバ協会]研究誌準備委員会□2018□『ヴィオラ・ダ・ガンバの手引』□日本ヴィオラ・ダ・ガンバ協会□http://www.vdgsj.org/viol_handbook/viol-handbook190116.pdf（2019 年 11 月 16 日閲覧）

翻訳図書の場合
例 7　フェルド、スティーブン□1988□『鳥になった少年――カルリ社会における音・神話・象徴』（テオリア叢書）□山口修、他（訳）□東京：平凡社

翻訳図書の一部の場合
例 8　ミドルトン、リチャード□2011□「序章――音楽研究と文化の思想」『音楽のカルチュラル・スタディーズ』□マーティン・クレントン、トレヴァー・ハーバート、リチャード・ミドルトン（編著）1-18□若尾裕、他（訳）□東京：アルテスパブリッシング

論文集等の一部の場合
例 9　野平一郎□2001□「武満徹のピアノ音楽」『武満徹□音の河のゆくえ』□長木誠司、樋口隆一（編著）

68-83□東京：平凡社

雑誌等

近年定期刊行物が増えているため，発行者名を付すこととする。ただし本誌『Discordia Concors』や発行者名が明白な場合については，発行者名（日本ヴィオラ･ダ･ガンバ協会など）を省いてよい。

〈基本の書き方〉著者名□刊行年□「論文名」□発行者名『雑誌名／紀要名』巻号:_ページ

例 10　林光□1991□「創造と日常のあいだ――バッハ・モーツァルト・宮澤賢治」□音楽教育の会『音楽教育』325:_7-20

例 11　相沢陸奥男□1954□「音楽学の成立並に各分野の関連に就て」『音楽学』1(1)：_7-20

例 12　砂川巴奈歌□2019□「ベルトラン・ド・バシイの『歌唱法』における音節の長さに根差した装飾法の意義――フランス語の音楽化という問題をめぐって」『東京藝術大学音楽学部紀要』44：_53-68

新聞等

〈基本の書き方〉著者名□刊行年□「記事タイトル」『新聞名』掲載日付　朝夕刊の別や版:_ページ

例 13　谷村晃□1961□「ヒュッシュの枯淡な味」『朝日新聞』1961 年 12 月 5 日□大阪本社版夕刊:_5

インターネットを通じて定期刊行物を引用・参照した場合

例 14　著者不明□2008□「慶応 150 年式典に天皇，皇后両陛下」『朝日新聞』2008 年 11 月 9 日朝刊:_社会面（『聞蔵Ⅱビジュアル』　http://database.asahi.com/□2017 年 2 月 7 日閲覧）

### 7-2　欧文文献

文献のタイトル表記は以下の原則に従って記述する。

英語: タイトルの最初の文字、および全ての名詞、動詞、形容詞、副詞の頭文字は大文字、他は小文字とする。
仏語: タイトルの最初の文字および固有名詞の頭は大文字とし、その他はすべて小文字とする。
独語: タイトルの最初の文字、および全ての名詞の頭文字を大文字とする。
他の言語: ローマ字に転写したアラビア語、ロシア語などは当該言語の習慣に従う。

単行書

〈基本の書き方〉著者姓,_名._刊行年._書名._刊行地:_刊行所.［必要に応じて翻訳書情報等］

著者 1 名・副題付の洋書に翻訳書情報も加える場合

例 15　Small,_Christopher._1998._*Musicking:_The Meanings_of_Performing_and_Listening*._Hanover,_N._H.:_University_Press _of _New_England.［スモール，クリストファー□2011□『ミュージッキング――音楽は「行為」である』□野澤豊一，西島千尋（訳）□東京：水声社］

編者 3 名の場合

例 16　Blum,_Stephen,_Philip_V._Bohlman,_and_Daniel_M._Neuman,_eds._1993._*Ethnomusicology_and_Modern_Music_ History*. Urbana:_University_of_Illinois.

図書の一部の文献を明示する場合

例 17　Gould,_Glenn._1984._"Streisand_as_Schwarzkopf."_In_*The_Glenn_Gould_Reader*,_edited_by_Tim_Page,_308-311._New York:_Vintage Books.

翻訳書の一部の場合

例 18　Adorno,_Theodor._2002._"The_Radion_Symphony."_In_*Essays_on_Music*._Edited_by_Richard_Leppart_and_translated_by_Susan_Gillespie._197-215._Berkeley_and_Los_Angeles:_University_of_California_Press.

雑誌等

〈基本の書き方〉著者姓,_名._刊行年._“論文名,”_*雑誌・紀要名*._巻号:_論文全体のページ.

例 19　Kambe,_Yukimi._2000._“Viols_in_Japan_in_the_sixteenth_and_seventeenth_centuries,”_*Journal_of_the_Viola_da_Gamba_Society_of_America*._vol._37:_31-66.

副題がある場合
例 20　Shelemay,_Kay_Kaufman._1980._“Historical Ethnomusicology:_Reconstructing_Falasha_Liturgical_History,”_*Ethnomusicology*._24,_no._1:_233-258.

欧文文献の表記方法については、Chicago Manual 等を参照して適切な方法で統一すること。

### 7-3　視聴覚資料

ＣＤ・レコード名、曲名、演奏者名、レーベル名、ＣＤ・レコード番号等を表示する。ＤＶＤ等もこれに準じる。

編集者を筆頭著作権者で上げる場合
例 21　『雅楽大系　器楽編』□田辺尚雄、芝祐泰（監修解説）□VICTOR,_SJ-3002

演奏者を筆頭著作権者で上げる場合
例 22　『マラン・マレの横顔 III――リュリ氏を偲んで』□平尾雅子、ALM,_ALCD-1035
例 23　『インスブルックよ、さらば』□ロンドン中世アンサンブル、ポリドール、POCL_3168

インターネットを通じて録音や録画を視聴した場合
例 24　林広守（作曲）□《君が代》□辻順治（指揮）、陸軍戸山学校軍楽隊□ビクター、52084、1932-01（『国立国会図書館デジタルコレクション　歴史的音源』□http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/3579872□2016 年 3 月 31 日視聴）

### 7-4　楽譜

作曲者名、曲名、編者・校訂者名、刊行年、曲（集）名等を表示する。ISMN があるものは明記する。

例 25　山田松黒（編）□安永 8（1779）□『箏曲大意抄』全 6 冊□名古屋：尾張書肆

ISMN がある場合
例 26　Bach,_Johann_Sebastian._*Drei_Sonaten-für_Viola_da_Gamba und_obligates_Cembalo*_(BWV_1027-1029)_Faksimile,_Hille_Perl,_Magdeburg:_Edition_Wahall-Verlag_Franz_Biersack,_2014._ISMN:_M-50070-888-9_EW_888

### 7-5　ウェブサイト

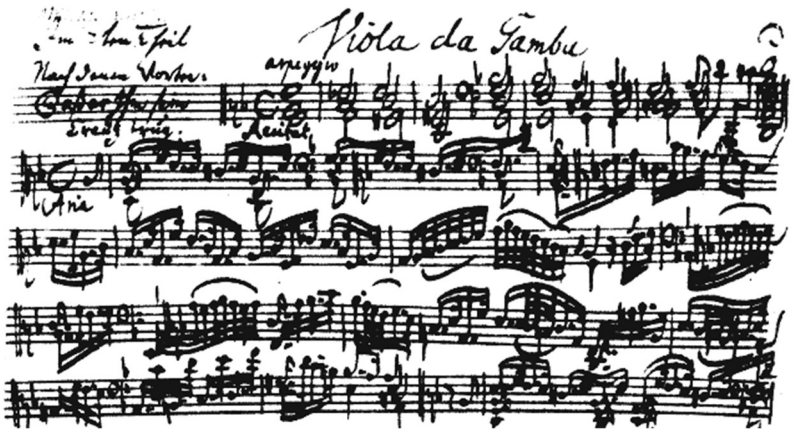
著者、発表年、ページ名、ウェブサイト全体の名称、URL、閲覧年月日等を表示する。（7-1 例 6 も参照のこと。）

例 27　Viola_da_Gamba_Society]_[2016]_“What_we_do”,_accessed_November_16,_2019,_*Viola_da_Gamba_Society*,_http://vdgs.org.uk/what.

## 8 引用楽譜・図版・写真等について

譜例や図表、真については、「譜例１」「図１」「表１」等の番号とキャプションをつける。
番号とキャプションは、譜例等の前に提示する。

例 28　　譜例１　バッハの自筆ガンバ･パート〈来たれ、甘き十字架〉《マタイ受難曲》より
Neue_Bach-Ausgabe_Serie_II,_Band_5a._BA/DVfM_5039,_p._VIII




著作権表示が必要な楽譜等を使用する場合は、必ず該当箇所に明示する。

著作権表示が必要か否かの判断や、それに伴う出版社や著作権者との手続き等は、執筆者本人が行う。
その際『Discordia Concors』が学術刊行物であること、紙媒体の冊子体で出版されること、将来的にウェブ上でも公開されることを伝えた上で、許諾を得る。
著作権使用料が派生した場合には執筆者の自己負担とする。

## 9 各種記号の使用法

| 名 称 | 記 号 | 用 法 | 例 | 備 考 |
|---|---|---|---|---|
| 中黒 | ・ | 名詞の並列 | 東洋・西洋 | 全角で使用 |
| ピリオド | . | 1. 欧文単語の省略<br>2. 名前の省略 | ed._<br>J._S._バッハ | ピリオドの後に半角スペースを挿入する。<br>全角記号の場合にはスペースは不要。 |
| 傍点 | ・・・ | 特に力点を置く字句 | ・・・・<br>それこそ重要だ | |
| 引用 符 | “　” | 欧文引用文 | | 半角のみ。シングル引用符‘　’は使わない。 |
| 角 括 弧 または<br>ブ ラ ケ ッ ト | ［　］ | 1. 引用文への補足・修正<br>2. 書誌情報の補足 | | 和文では全角で表示。<br>欧文では半角で表示し角括弧の外側に半角スペースを挿入する。 |
| 丸 括 弧 または<br>パーレン | （　） | 補足的な説明 | 元禄_16（1703） | 和文では全角で表示。<br>欧文では半角で表示し丸括弧の外側に半角スペースを挿入する。 |
| 二重鍵括弧 | 『　』 | 1.「　」内での引用文<br>2. 和書名、和雑誌名 | 『Discordia Concors』第 1 巻 | |
| 鍵括弧 | 「　」 | 1. 和文引用等<br>2. 雑誌論文等の和タイトル<br>3. 強調 | | |
| 二重山括弧<br>または 二重ギュメ | 《　》 | 作品名 | カンタータ第82 番《我は満ち足れり_Ich habe genug》(BWV 82) | 全角≪≫は使わない。 |
| 山括弧<br>または ギュメ | 〈　〉 | 曲集のなかの 1 曲 | 〈まどろめ、疲れた目よ〉カンタータ第82 番《我は満ち足れり_Ich habe genug》(BWV 82) | 全角＜＞は使わない。 |
| ハイフン | - | 1. 欧文の単語の分かち書き<br>2. 欧文中の数字の範囲<br>3. 文献のページの範囲 | 1. ar-tic-u-la-tion<br>2. 1603-1867<br>3. pp. 13-16 | 半角 1 字分 |
| 二 重 ハ イ フ ン | ＝ | 外国語の固有名詞の分節 | ジャン＝ジャック | 欧綴ではハイフン<br>Jean-Jacques |
| 波ダッシュ | ～ | 1. 和文中の数字の範囲<br>2. 語句の省略 | 1. バロック時代（1600～1750）<br>2. ～のように | 和文で全角 1 文字、<br>欧文では使わない。 |
| 二倍ダッシュ | —— | 1. 挿入句<br>2. 和書の副題を示す | | 全角 2 字分 |
| リーダー | … | 中略 | ・・・(中略)・・・ | 全角 1 字分に 3 点。欧文ではピリオド 3 つで代用。 |
| 下線 | — | 語句の強調 | ルイ王は<u>舞踏</u>を愛した | |
| ルビ | | ふりがな（漢字の上に） | 『糸竹初心集（しちくしょしんしゅう）』 | |